

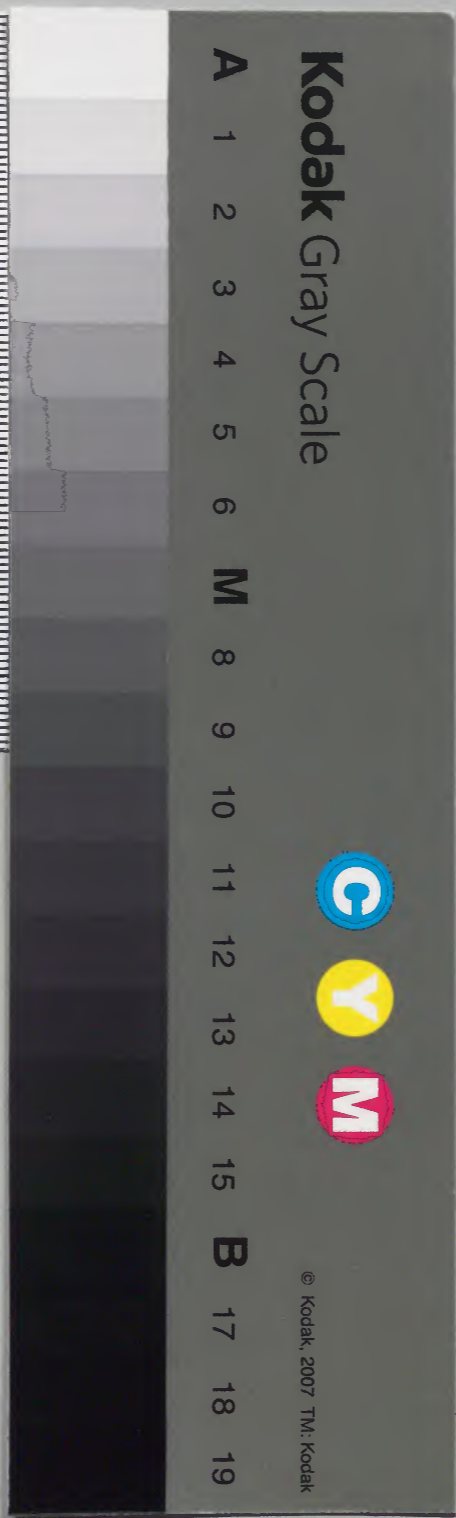
東山道地誌 陸奥二

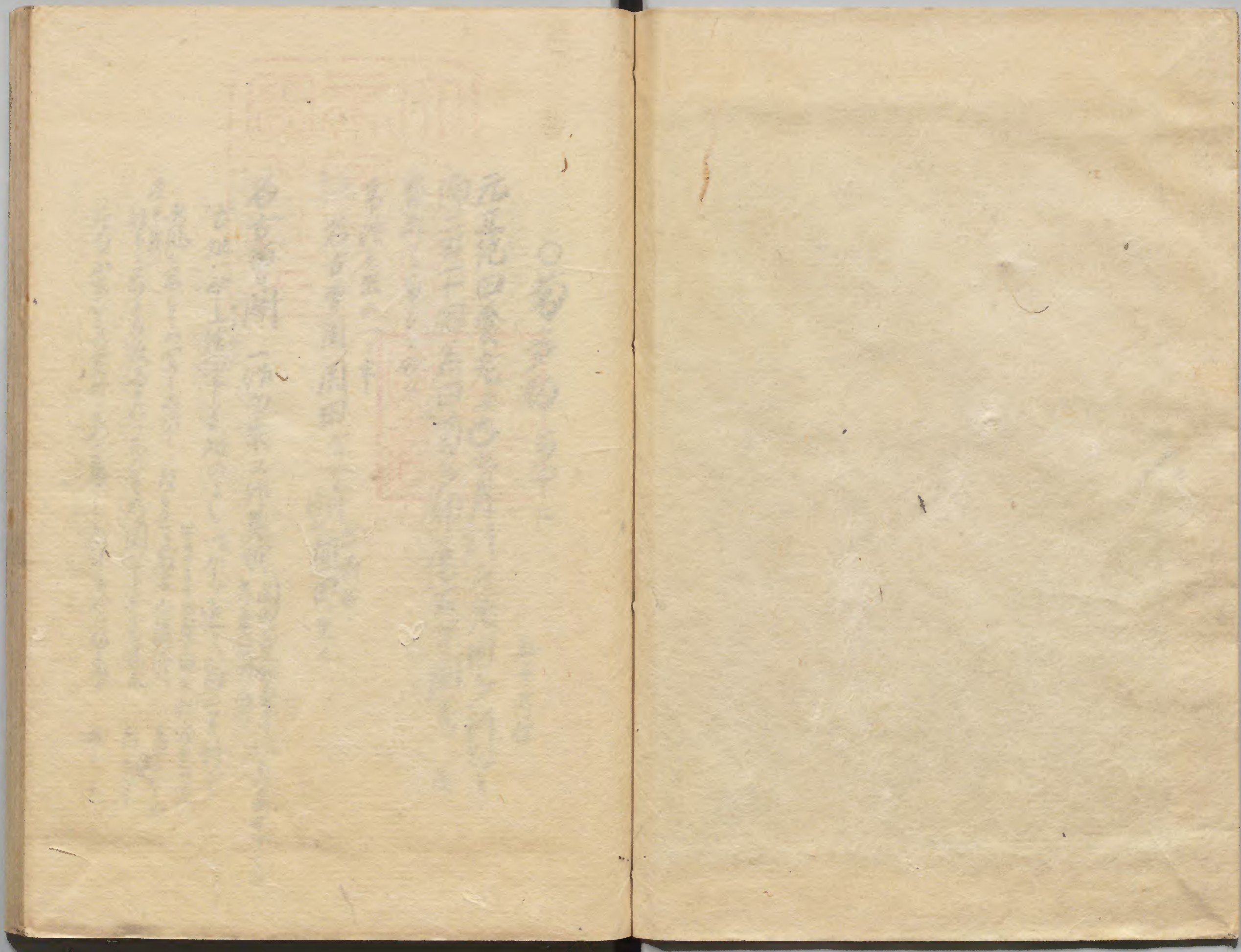
八

和書門			
二九二〇〇	函	架	冊
一四	冊		

庫文閣内			和書
二九二〇〇	函	架	冊
一四	冊		

内閣文庫			
番號	和	29200	
冊數	14 (8)		
函號	174	164	





Faint, illegible text on the left page, possibly bleed-through from the reverse side. The text is arranged in vertical columns and is too light to read accurately.



○菊多約 菊中七

六九三〇番

明治十五年請求

廿十廿村

元正記曰卷老之○昔月割在濠園多阿野

御二百十個若由菊多約一層石皆四焉 後

盤池ヨリ菊多ヲ分

常陸上出公一リ半

若古曾園 園田一リサ川 岩前郡 植田ニ至ル

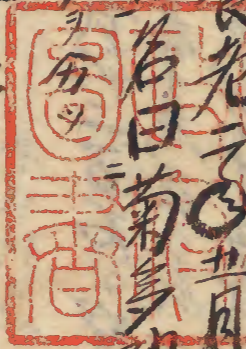
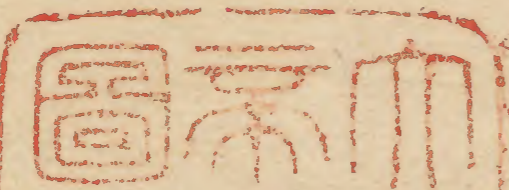
若古曾園

一作勿来又作莫城 園田ニ至ル切包アリ切包長廿二步

古址今上遠 津と云ぬのよし 一今ノ通リ公西ニ里許在

名風七若古その字をいひ一たりせをある山嶺外 義助公

在りかあるその実のよあし馬とといひりあやあはる 乃之



東海の方にあるの字の名高き地は成り 意能
東海乃其の里也 昔古の字を説き 西の

宗徳寺

開田

左法徳寺に昔は地味險峻なり其の切をせし地の如
上田一ノリ
寺多々あり

醒川 國田大村を 敷川

泉

本多氏に二万石 江戸に廿十ノリヨ 極田一ノリヨ
元和廿丹羽其節其為の長多し 室町末内儀 元禄4ノリヨ
松平氏其意の分本多氏 當りてあり
泉村に利根屋浦と云ふ是地 利根氏氏に承り
又を造りて 昔那ノ洞と云ふなり 是の字も 多々地味一知

此の地を定めて 是の地を考

多々地味 泉川も 江戸中を以て

上遠野 極田一ノリヨ 此の地の分本園の地と云ふ名ありて 風系

石 此の地と云ふなり 泉川

泉川 此の地と云ふなり 泉川

菊田 東松川 白川 此の地と云ふなり 泉川

久の 後 極田一ノリヨ 此の地の分本園の地と云ふ名ありて 風系

九面 此の地と云ふなり 泉川

荷路 夫 此の地と云ふなり 泉川

泉六角堂 年改西面 平河跡地堂 以基作
德尼建 多漸味在法 古縁古者 原平隆 以基

皇武聖殿七堂

大園意神社

春日 四月廿六日 吉九月九日 忌前 龍宮波村
今明神卜云

菅 神主 山居 修 年

子秋倉神社

同前 幼年 忌月 吉

同平 日橋 山代

佐麻久志神社

同中 守村 口 少 神 頭

鹿鴻神社

同上 五田村 口 二 年 忌 吉

佐吉神社

同佐吉村 日 忌 及 池 海 吉 日 上

沼泉神社

多神 大 忌 貴 命 多 貴 命 多 貴 命

同 沼 泉 村 日 忌 及 古 大 知 守

二俣神社

今 侯 宿 多

同 下 山 村 日 忌 及 年

園より

○岩前

清とを標由り初年八十五村
小宮西川村南葉田流尻村

植田新田 油井

液約一斗毎尾可湯水可岩前年

湯長谷 油井

陣營 内敷氏以一万五千石 是又中興之領之 江戸ノ中三三三

湯本駅 年一リ以所より

三ツ湯 サハコ 或は湯大野の湯岳也升岳より三葉田入
於遠 何れを以て列進一人の湯里ハ其の湯の心あり

湯後 夜ととと 湯か一斗をみちのくの心ありゆとせしめ
湯水味以淡鹹家毎一斗を引之能治湯後

小宮濱 年一リ以所より 植田、山前より

常州中溪 サハコ 日名相馬 計日名仙居流 年一リ下流視子
三十一
サハコ

中途流

湯の嶽 高七尺八寸 土面純多量 年一リ以所より
大口中葉之

全戸流 中野

清絶橋 志意村 橋を以て標之 柳水り 道雅

白土の町 橋あり 橋の心あり 定家

中田川 中田村 純因

里屋橋 蔵村 中流流

孫田川水原田村郷湯沢田子井二流あり
三軒成流て海へ入る者長川居一七あり
思過 少長 高園リ二百四十歩

○盤城約世名年云字村

岩海樹
名

云云記曰古名二割陸奥西石城標葉以字大直
狸菊多之記云云城圖

云云古名磐城奥州の内在州東南名磐城名神菊多
備多謂之磐城石城從八十平八十平其東海道
村二百平之田一万七千六百五十五畝廿二歩一
千石十一只九万五千石三七 定云中考ト云
平城古系師、十六平、 東成台三百二十リ

昔考銜師平江中陸奥東に石城を附き其
城、平後十三式自陸奥州秋田縣に移り後多左
系考又右記居干以是改移州最上約後内左
馬中評長封干此改平卒而定興陸奥の内左帶刀

平戸城

世徳宮

世徳宮城址地是昔時宮城址平戸石一町二
僅二万石云々

安永式所北万石宮谷平戸三春八十七り中村若

成之宮城址中貞隆居御別所慶長七多左系

亮忠政御別所元和公内多成延享四井衣宝曆六

安永式

岩城岩前南多橋多四町を世徳宮と云

尾子橋 平戸城由

修平八幡宮 社址四町平戸城由

慶平中津村義公石橋多新住宮城御新御所

将石物岳跡を再渡渡神社附石橋大杉御所

建永之赤和布海平修平平福云

岩城八幡宮 平戸小津村 四町平戸 別当満盛

以同津波家集城を討の後渡宮跡多十里毎一庵を
建其一二云

梅宮城志云あり多御社山平城小なり 高二百廿丈
於此の橋多御社を旧所之中古尖三罹り後小津村を

遷宮是宮城の橋と口物
寛河渡シ 平戸八丁

三浦 四倉濱 平戸 世徳海名漢高多し 旧宮多あり七り云々
三浦 四倉濱 二り本

河加井嶽 四倉早合十河小沢洞村

山平三葉津車多御社五所其基 希福平大同三季創

古樹松 延五松 根母松 天狗松と云なり
岩城跡所 旧宮の跡 小津御所 岳を 寺を 名凡四里

平戸 毎度 灯の如く 走りを 奴の 奇云云

青木山室流流 穂田村和撰出蔵徳寺 平原
室継中是 之徳中是 折本村

長原平 存 百石 約沢
正平 祥 平石 苗村

四谷之小之可斗リニ酒葉為帳那迄と云
以程平角野野川口倉ニ平久流ニリも廣登リ木戸
橋無登リ

○酒葉部 標多ノ 三十四村 橋多葉部
誤ト云

彦平石リ

本戸 平建 富岡 一リ 熊川

俣川 相馬 从以川を流リ 又以是を標葉橋路界と云
多中村ノリ余

酒多八幡大神宮 或内標葉部一坐
名城橋多部上比追并
若野 若生神社 卷田 多 額 和 知 目 比 至 楯 将 但 馬 守

鬼城 平城 西小 平里 高ニ云々
神樂山 日 六千里 高ニ云々
二茂山 日小 平平 高ニ云々
雨沼石 桶賣村 田中

方初 游 涉見川 山中 多長 久 名 橋 大 多 村 平 三 三 橋
十 傳 涉 多 及 多 及 多 及

矢大臣山 平敷西小平平 柄葉田村 二部 踏^ル高^ク三
大瀨根山 信濃省治藤原 日^ノ部 踏^ル高^ク三^百七^十丈

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○標葉 西邊の地、深井

富島のり

徳川の中津より高野

以徳川を越る船は舟と在馬封疆へ

改方標葉は舟を舟の南より

標葉は舟を舟を相馬ト云

○行方約

多量の二

少量の二 鹿野 馬牧 長 許 中 一 ヨ

海老浦

相馬妙見祠

平将の靈を多ると云

此祠は少子社先の御徳に
毎季平将日申中日御見祭或は是を中約祭と云はる
祭とも云相馬牧に少多平所百は各園名八條廻り作
之馬藝芸城天下の壯觀は然ありを物部部集芝居觀
備茶居酒家商を會の者より出れ
也

此馬の鹿野の牧の約と云ふと此と云はるは是の線

一 兵部式部省約八坐 大一坐

鹿嶋御子神社 多賀月十七日 以方約相馬成麻呂村

御子神社 口九ノナ 口七御左田村

冠嶺神社 口四ノナ 日中御左村

高座神社 口三ノナ 口多生金井

押雄神社 口二ノナ 口押雄村

日祭神社 祭月二ノナ 口大野村

多賀神社 祭月十ノナ 口若鶴元高邑

多賀嶺神社 祭月八ノナ 口大井村

格行方約不詳其地或從以十齋地為以方在路
如漢牙國海書亦載于此部中然別以以古之
以方部而今廢僅之空嶽經者歟

○字多郡元浮田 又字甲も 九村

中村 城ノ下

相馬氏終以以 六方名 自字七十八日修内通八十一

子負神社 或内 約ヶ麻村 普門山 其大汽

み若北の字多の土原の行旅見物せよと云む得給のつ手白

駒嶺城 駒嶺村相言 處生 爲内 爲先 爲後 爲末 中 爲名 爲之
字地 十 爲城 字地 十 爲村 字地 十 爲字 爲家 爲松 爲田 爲民 爲長 爲後 爲方 爲河 爲谷 爲年 爲之

鹿島の中村 黒木ニリ 駒嶺ニリ 本 駒河 駒島 駒少 駒神 駒石 駒村

字多那
駒多那

釣糸溪 駒嶺車死

白沙溪 駒の溪以水

駒嶺城 駒嶺村 駒嶺車死 駒の溪以水

駒嶺城 駒嶺村 駒嶺車死 駒の溪以水

〇七河郡

二所の開明神祠 下邦隆興界 兩社並ぶ之 白坂を其の疆

同山の神祠を古社と云ふ

東方宝壽山 其の方 和之山 亦額黃梁を其の山

正名をト云

を林幸ト云

神

上邦其建武を其品を返近云 其間には其を返近の神一は 神名の松本を返の松ト云

白河關

此河系作也水隅高なり故に關門關ト云 凡そ海を走る者上邦を解しては其よりありて 陸を走る者上邦を關門を其之を居て二所の關に 以てしと云

千載

此山を其の山と云ふ 其の山を其の山と云ふ 白川の関

都をばたきとともおーりと秋風を吹白くその実 秋田
をふたたびととも吹く白川のせきとめすともまき之りあふ
道真准后

関山 白川の雲を一日に關山後視御を別由満紙奉
正徳三年

地尾大山ありん勢を十八七宅子今、白川宮と云ふ南
三里ヨリ

旗村 旗川 福柳村を

秀漸神といふ地 関山村下

古、義経西を奉向の村秀漸は歿を語りしと云
神は秀秀漸と信て秀、ある事、九年、と云

白川関 四國雜記

とめまとも白川とともなる事、の、白川、神名白川の雲
道真准后

白川の雲のみ木の山をまきとめ、申るをまき風の雲
吹く

都を今や吹くは秋風の来、とある、白川の関

白修殿、白川殿といふ所を、白修殿といふ所、白修殿
白修殿

草薙村 金賣吉次信子、又信子、平次村、
白川、二、
も、信子、平次村、

白川府 松田高、一、矢次者、一、三、平、所、
傳、平、

當座主神申後十一万石、白川、四、十八、
二、市、石、十、
或、十、六、八、十、

本、若、松、附、播、磨、氏、臣、内、所、御、長、門、守、居、
室、永、四、丹、羽、氏、臣、
同、北、松、平、或、羽、大、夫、重、海、二、市、多、松、平、守、居、
室、九、松、平、下、松、平、之、

福之杉平古和年實保云杉平神中書

向武隈川城と流る杉原を之杉平申大橋あり
白川の石たりの方風穴と云ふ
白川原市中千形神

二宮八幡神祠 古社、白川早橋

義家公平河家柵原勢神社之杉平社也ハ多
松古附今杉平と成

古杉あり杉平川流る杉平

都々古和名神社多神崇神味相高彦松命八槻村

初正一位奥州一宮 或内七等の内 大彦

白川神社 今鹿嶋と杉平神也 和和上徳小河邊

額を比賣神社 修を村 別名白川山王年

長尾神社 今杉平文 長尾村 神之知和和年

鬼門善遊閣 白川。芭蕉翁住地

桐倉舟 古名舟敏 古之系氏 音云 江谷公其ナリ世云

高城 古長文 古長文 杉平 宗茂之知 大丹羽 五市 高門
長重 古長文 古長文 杉平 信照 口信 良日 或信 皇
亦二古田 備中 守古保 十三杉平 右近 将監 武元 延享
三言リ 古長文 杉平 長恭 ヲリ 富主

桐倉川 水は陸の多入落る

人參自田 桐倉分十所ヨ東ノ山種人參を植

塙 陳營 柳宮

蓮性年 一白馬使 甚早也 柳宮 関島山を志す白馬を志す
当家三親を神の子と云ふ其血脈今に之を云

無為信年 日平八 柳宮 甚早也 瑞泉寺 後家 古原

願入年 七個 親を神人 聖堂 聖堂之為 志 志 志 志 志 志 志 志

下野之次 石倉 柳宮 柳宮 柳宮
○左衛門河部 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮
中町 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮

○仙道 年 柳宮 柳宮

○柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮

伊波止 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮

今 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮

柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮

古 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮 柳宮

千七百の八と云

溝嶺神社 白川七甲の内陸奥下柳を流す
大己貴命事代主命二神也
仁明天皇勅額所
芝藏流

景正寺 二夜の目録巻権共故宅也
白川根田入

龍崎村 龍崎川にありて是を遭隈川の石壁也
水原寺
龍崎寺

河武隈川 延武河武隈川河福麻八雲作台曲

東隈作道隈若遇隈八雲抄曰万葉みちのくは川
を云のくは川といふ一説あり一遭隈 芝後河福
葉流と云

河津白河西甲子嶺^{カサトウナケ}今津原大徳瀑布より登る
北流也十石を流る若流若流河海入長流凡百
里許及(リ)と云

大徳寺
河津の西に建ちたり河津の石を以て
石也

河津の西に建ちたり河津の石を以て
石也

河津の西に建ちたり河津の石を以て
石也

河津の西に建ちたり河津の石を以て
石也

河津の西に建ちたり河津の石を以て
石也

河津の西に建ちたり河津の石を以て
石也

後撰

新撰於志

西川石首

たぢりりる道隈川の宿のりく秋もやみぬまもさるる

かきしはるる里人ふりりよて道隈川の宿をせり

新古今

そら波も道隈川の根木も水もろくまをこそまて

沈木は川がたむる春子割りて雅こ

城外名風多し一雲と

宿多の海り ちのち海月の海りとも

風そよく宿多の海りそよそ水も道隈川もさるる月舟

文槻 うらむ杉の森

よこしんまらん

桂中助云

定家

道真准后

歌仲

道真准后

ちる花をまき一と宿のまきとみくゆき宿きくうらむ杉の森

日廻を新記にたつまをまき人こそ水はれ此山と云今川

田舎云

白川の宿多は白川・飯土浦・上志保・長沼・勢至寺
津之三平・林三下・先かお宿多を福良・行建・赤根・金澤
系村・新若松・云々

石川郡

浅川津宿

古城

菊田記石段今竹貫志地在此之記貫今春

白川十号 桐原二重河内之進之
宝木村二重河内柳原之進

白川初七重河内陰夏一宮 西須金村

須谷村

神主二平播磨守仲野村

今八橋文上志之也年有十之
味能高彦孫令

吉田志英云哉許河内奥州一宮志英

志氏也年有進狀河内奥州一宮志英

此社河内中里村分級也一志英 河内許家書并天西丸

橋上居一文巡詣地ノ徳之 錦口志英奥州一宮志英

假夷密守宜石屋敷之処多者異類志集元之伝言
河内奥州一宮志英

河内奥州一宮志英之塚ニリ中田形河内志英村ニリ今
三春志英今三ノ八下志英ニリ三本松 河内奥州一宮志英

或云此田彦家士秋田方也其石本性七畠顯家之嫡

子松神社 正一位勢多氏第一 今田村郡三春領常葉町 依之云
或前秋田郡一里 神主 少松多利守

○會津郡

白川約西當今會津縣之云今會津河沼耶麻大沼
今四郡之云 或今會津之云 蒲多郡分一郡不詳
古事記云大昆古の命者隨先命而罷行高志之
爾自_二在_一の方所遣_二建_一沼河沼與_二之_一大昆古共_二往_一
遇_二于_一其地_二友_一之_二相_一津_二之_一 一之字多同名之部
在_二中_一今津所_二在_一云云他_二記_一
若松所_二成_一 本名_二所_一天正年間蒲生氏城之方改

若松

古_二所_一津_二所_一名_二之_一浦_二今_一平_二野_一 津系十良我
連十八_二段_一之_二夫_一城_二至_一 今平八蒲生 若_二子_一勝
之_二部_一 若_二子_一勝_二中_一上_二松_一中_二納_一 今_二早_一勝_二多_一大_二蒲_一
生_二飛_一津_二守_一秀_二行_一嫡_二子_一松_二年_一 今_二所_一守_二九_一郎_二定_一 亦_二名_一
藤_二在_一 今_二若_一明_二同_一式_二部_一 女_二浦_一明_二成_一 同_二廿_一保_二科_一 左
中_二將_一正_二之_一 以後_二代_一之_二領_一之

高_二至_一松_二年_一肥_二後_一後_二二_一十三_二万_一石 自_二江_一都_二六_一十五_二里_一
至_二白_一川_二十_一七_二里_一 今_二羽_一州_二中_一 凡_二十_一七_二段_一 今_二至_一 二_一本_二松_一 三_二里_一

飯_二方_一神_二祠_一 祭_二神_一信_二例_一 同_二今_一津_二縣_一內_二社_一 之_二信_一 之_二社_一 之_二石_一 之_二上_一 之_二三_一
羽_二黑_一神_二祠_一 日_二羽_一州_二羽_一黑_二勸_一諸_二同_一 今_二六_一人_二中_一 之_二人_一
東_二照_一大_二神_一君_二 今_二內_一 社_二領_一 十_二石_一 別_二向_一 正_二壽_一年

養國神社 日本一社 雅彦靈 延喜式内云

社内楠方科二株在

神主 佐藤大隅守

實相寺 祥家 今津 宇屋 残夢 醉月 和尙

惠日寺 日本多夫六葉抄云

延喜 磐梯明神祠 本寺小 新象 権現

境内 之 沽 爰 秘 以 秘 化 石 淵 伽 井

此地 保 神 家 墳 墓 所 正之 朝 臣 墓 在

寺 浦 冥 神 碑 在 下 部 兼 連 之 文 延 喜 二 年

秋 空 海 作 地 也 云 云

布 川 上 寺 之 本 寺 有 之 文 神 之 月 之 輪 々 云 云 云

此地 境内 廣 く 眼 之 湖 之 足 跡 一 凡 衆 云 云 云

園川橋 今津

主 製 之 巧 巧 之 橋 也

窪沼 白川 境 方 然 涉 山 谷 之 邊 在

窪沼川 今津 窪沼 寺 之 西 之 邊 也 窪沼川 入

未 之 後 之 邊 也 云 云

曾津川 出 源 於 苗 武 湖 之 邊 井 添 之 邊 後

之 邊 海 新 浮 之 海 入

曾津山 磐梯山 又 磐石 大山 或 云 代 志 記 云 云

在 苗 武 湖 之 邊 巖 嶺 也 直 之 邊 也 浪 浪 之 底 焦 烟 云

見 之 山 之 半 勝 之 邊 泉 在 山 下 毒 石 有 之 禽 獸 之 傷

之 時 乃 然 陰 毒 威 也 知 此 名 之 新 之 俗 人

捕 石 之 云 云 或 云 山 嶺 也 云 云 治 之 邊 也 云 云

山上盤古後復と云宮生多月也山の者多
或云常山言三百丈早将之八何中同類して
口百八十五百尺人云云

多系滋幹女

志をのりて中好しものを志津山入りまふるを志津
志津山

カク字カ

志津山 志津里 志津宮 志津川 古志津

里云

猪苗代湖 盤梯山下志津湖

志津の志津山に猪苗代湖と云地は古の志津山に分水也所斗を
猪苗代湖と云 湖中志津宮 猪苗代神社と云あり
或云或三番 志津山に志津山といふと云志津山といふ
古志津山九十里山の志津山といふ志津山といふ
大同二年一夜三夜に猪苗代湖と云と云

凡長十重許換なり程或申す所志津山九十里と云
志津湖と云志津山に志津山といふ志津山といふ
者くは志津山と云志津山といふ志津山といふ
此地志津山と云志津山といふ志津山といふ
志津湖と志津山の間を志津山といふ

新の志津山といふ志津山といふ

志津山志津記云

猪苗代湖在盤梯山下方同之志津山志津山
百里許志津山志津山志津山志津山志津山
數十浦浸志津山志津山志津山志津山志津山
琵琶湖並称者云

湖が少川日傍川名流流のやしを引川下流と云
 えて若松が少川と一流成厚海那麻布郡境と云
 又湖の少川酒川と云谷この流水の
 今津古居那麻布郡の西の西の流を流流成流成

塩泉 塩泉村今云おろき塩泉と云
 御所付は塩泉村大鹽邑と云

大塩の少川と云て塩を塩て業と云る民家凡半
 余半地より左塩の之に少川を深翁作流成
 戒を授けを計として井塩を塩成と云り
 は地が海辺近凡四日流成も在魚し流成に地成の
 多脈古海成貫直して流成の流成多知に流成流成
 海を去る多の塩と云つても水を鹹しを成多海
 通と云る者中華四川雲南塩井もは成多
 視流聞老志云若松中塩成大山在土人六十里
 行々殊後成之山復生塩と云

梅之六千里成りしころ成流成流成又成也
 口念の成ありや

廻る難成云高成の山と云る山成り成り海成り
 浦成り山成り成り成り成り成り成り成り成り

護法山示規寺 釋成之志云天寧寺の北
 本多千本大士山流成山流成在流成の成
 後流成流成は成流成成成成成成成成成成
 天寧寺 釋成之志云

奥湯中平常成流成
 成流成成成成成成成成成成成成成成成成
 成流成成成成成成成成成成成成成成成成

二車泉涌かし今に増減ありと云

材木山 平谷系根あり山終る

以地の石柱の如し長七八尺或三尺二尺角にて節あり
まゝ多し奇石あり

梓岩使岩岩 田嶋下菴下計生村古所は空に在
計生寺

男天狗岩 女天狗岩 山口村に在 湧池の岩山

長田山 中山

帝釈山 上野原

小瀬 峠 上野原

赤安山 上野原

中瀬 沼方三ノ湖と云
後上野原と云

日光平

西府

馬場中法務所建
境内古作礎あり

東善寺

田沼村 大同中弘法所建

室谷川

所傳約伴小御八千部古某小海と傳
海入約岳塔名某山多うして室谷に玉成り多
海谷は地三層り凡百廿一り又は谷中流に天
海川と云西川と云内川と云津川と云て掃川入

願成寺 号叶山津土家 今傳

今村の生記に雪車又作雪舟と云ふ川津素三傳

分

雪舟の事その雪舟村傳にその舟を雪舟と云ふ
初深雪舟と云ふ事あるは雪舟の語人なりとの事
雪舟を舟りかへて雪舟の語人なりとの事
上代に舟と云ふ事あり

概サシキハ紙多羽とて名皆をたをくドニ改修ひて
雪舟の舟を舟りかへて雪舟の語人なりとの事

或記に雪舟舟中と云ふこの舟舟海邊の地にて改修
舟を舟りかへて雪舟の語人なりとの事
舟と海舟と云ふ事あり西代に舟三十金を舟りかへて
舟舟の價を舟りかへて舟舟の語人なりとの事
舟舟の舟りかへて舟舟の語人なりとの事
舟舟の舟りかへて舟舟の語人なりとの事
舟舟の舟りかへて舟舟の語人なりとの事

酒前古松村徳園植記の比雪舟舟中と云ふ事あり

舟舟の舟りかへて舟舟の語人なりとの事

曾津松造諸方道法

山田村に若松八十一里許

西の方山田村に雪舟と云ふ事あり

山田村に雪舟と云ふ事あり

南の方上野園治田に雪舟と云ふ事あり

雪舟の舟りかへて舟舟の語人なりとの事

大沼村古河村に雪舟と云ふ事あり

雪舟の舟りかへて舟舟の語人なりとの事

雪舟の舟りかへて舟舟の語人なりとの事

一山江流此山年よりし堤中より河原の柳下より
 右大谷堤中より右二 銀山跡 堤中より南十町を以て
 砂五村 堤原より北五 那身 西より大谷の北 堤中より北五
 東より河原の北 柳下より 堤中より 右より 右より
 形跡 柳苗式 堤中より 右より 右より 右より
 東より 堤中より 右より 右より 右より 右より
 右より 堤中より 右より 右より 右より 右より



